

「食材配送システム」製品分類別基準 (PCR番号: CE-01)

注)この基準はエコリーフプログラム実施用に作成されたものです。事務局の承諾無く、本内容を他の目的に使用することを禁止致します。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め内容
1	PCR制定の前提	製品	定義	産地から拠点、拠点から店舗までの食材1t当りの輸送(食材の生産と店舗での廃棄は含まない)。産地とは、収穫後の集積地及び生産加工場などを言う。店舗とは、日本国内において輸送食材の納品地、例えば、スーパー、デパート、ファーストフードなどの飲食取扱店並びにデリバリー店などを言う。拠点とは、日本国内において産地からの食材を収集し、店舗へ配送する手段を整える倉庫などを言う。
			範囲	最終商品に必要な食材の範囲とし、配送する食材が追跡可能であり、輸送負荷及び積載量などを把握・調整や指示が出来る範囲の食材搬送。
		ステージ	範囲	①輸送媒体の製造と廃棄、②産地配送(産地→拠点)、③拠点(エネルギー等及び包装材等)④拠点配送(拠点→店舗)のステージについて記載する。 ※別紙(1)A,B参照 輸送中や拠点で使用するダンボール箱、通い箱、バンドなど包装材も含める。 拠点の建物建設や設備製造などは含まない。
4	製品データシート(LCI入力データ)	対象食材情報	食材の種類と量等	①食材1t当りの種類別の出荷重量と代表的な歩留まりを記載する。「代表的な歩留まり」とは、産地出荷量に対する店舗到達量の比率を言い、各社実測値の平均値などを用いる。「代表的な歩留まり」の根拠については検証書類に明記すること。 ②対象食材の比率等の情報を、説明欄に記載する。
		輸送媒体の製造・廃棄情報	製造・廃棄に必要な材料や電力・燃料	①各種輸送媒体(トラック、鉄道車両、船舶、航空機)の製造・廃棄時の材料や電力・燃料の使用量は、輸送負荷で配分した量W(kg, kWh)を、輸送負荷量L(t・km)の収集データおよび投入数Bを用いて下式より算出する。※別紙(2)参照 $W(kg, kWh) = B(kg/t \cdot km, kWh/t \cdot km) \times L(t \cdot km)$ ②冷凍車など、特殊車両の製造負荷は一般トラックとして計上するのでトラックの輸送負荷量L(t・km)に含めて記載する。 ③輸送媒体の製造・解体ステージにおいては最低限の解体のみシナリオとし、フロンに関しては冷凍・冷蔵車の使用比率のみ「その他環境情報」に記載する。
		産地配送情報(産地→拠点)	輸送媒体の種類と負荷等	①食材1t当りの輸送媒体名、および媒体ごとに下記A～Cのうちいずれかの輸送データを記載する。 A. 燃料使用量(kg)、および説明欄に燃料の種類 B. 輸送距離(km)、および説明欄に燃費(km/kg) C. 輸送負荷量(t・km) * 燃料データを容積単位で収集する場合には以下の密度を用いる。 ガソリン:0.75kg/L、軽油:0.83kg/L ②輸送状況の関連情報を説明欄に記載する。 ③海外調達を含む場合は、海外における港・空港からの負荷を計上する。
7	拠点情報	エネルギー使用包装材等	①エネルギー等の投入・排出量(食材1t当り) ・拠点で使用される食材1t当りのエネルギーなどの量を種類別に記載する。 ・エネルギー使用用途等を説明欄に記載する。加工品の場合、加工工程のエネルギーも含まれる。 ・排出項目は残渣を記載する。さらに各社で重要と判断したものを記載する。 ・残渣についてコンポスト処理を行う場合、コンポスト率を記載する。 ②包装材等の使用量(食材1t当り) ・包装材等の使用量を、種類別に記載する。 ・包装材等の使用用途、使用回数及び廃棄方法を説明欄に記載する。	
		拠点配送情報(拠点→店舗)	輸送媒体の種類と負荷等	①食材1t当りの輸送媒体名、および媒体ごとに下記A～Cのうちいずれかの輸送データを記載する。 A. 燃料使用量(kg)、および説明欄に燃料の種類 B. 輸送距離(km)、および説明欄に燃費(km/kg) C. 輸送負荷量(t・km) * 燃料データを容積単位で収集する場合には以下の密度を用いる。 ガソリン:0.75kg/L、軽油:0.83kg/L ②輸送状況の関連情報を説明欄に記載する。
9	製品環境情報開示シート(PEIDS)	インベントリ分析	LCI計算式	①店舗到達時の食材1t当りの数値を基本とするが、必要な場合は、産地出荷食材1t当りの数値を計算・併記しても良い。 ②更に、食材輸送負荷1t・km当りの数値も計算・併記しても良い。 ③輸送媒体の製造・廃棄ステージのLCIは、材料とエネルギーの量Fと原単位aより、(1)式で計算する。 $LCI(kg) = a(kg/kg, kWh/kg) \times F(kg, kWh) \quad (1)$ ・冷凍車など、特殊車両の製造・廃棄負荷については一般トラックとして計算する。 ・冷媒フロンについては、廃棄時に100%回収されその分解処理に関わるエネルギー消費は無視できるものとする。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め内容
				<p>④輸送手段ごとの燃料・電力等の使用量 F の算出方法については、下記A～Cのうちいずれか方法を用いること。 ※別紙3参照</p> <p>A. 燃料法: 燃料使用量(kg)を用いる方法 B. 燃費法: 輸送距離(km)、燃費(km/kg)を用いる方法 C. t・km法: 輸送負荷量(t・km)、積載率(%)を用いる方法</p> <p>⑤産地配送と拠点配送ステージのLCIは、輸送手段ごとの燃料・電力等の使用量 F と燃料・電力等のエコリーフ原単位 a を用いて(1)式より計算する。</p> <p>⑥包装材の投入・廃棄についての情報は、拠点ステージに計上する。</p> <p>⑦ダンボールのリサイクル業者までの物流は、20km、2tトラック、積載率100%とし、段ボールリサイクル協議会の最新データを使用すること。(2006.10現在 95.2%、段ボールリサイクル協議会 2005年データ)</p> <p>⑧包装材(数回使用の通い箱を含む)については廃棄を計算する。</p> <p>⑨通い箱の負荷計上分Wは以下の計算式を用いる。 $W = W' \times \eta 1 \times N / (N + 1)$ W':通い箱使用量、$\eta 1$:実績回収率、N:リユース回数</p> <p>⑩食材残渣のコンポスト処理分については、処理の負荷及び控除(リサイクル効果)については計上しない。焼却・埋め立て分については残渣の15.5%を埋め立て、残りを焼却として負荷を計上する。</p> <p>⑪輸送媒体ごとの温暖化負荷量を計算する。</p> <p>⑫オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 ・「間接影響」範囲とする工程 ・「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
10		インパクト評価	カテゴリ追加	追加無し
11	内訳データシート(製品データシート関連)	データ加工	アロケーション	食材毎、輸送媒体毎、産地・拠点・店舗毎のデータを基本とするが、集合体のデータとなる場合は、輸送量、輸送距離等を考慮して、適切な手段で配分(アロケーション)し、配分手段の選定根拠を記載すること。
12		データ収集	収集範囲	<p>【食材情報関連】</p> <p>①産地→拠点→店舗の輸送食材質量は100%収集する。</p> <p>②代表的な歩留まりは、各社の食材別の実績を基本とするが、それが困難な場合、集合体の数値を使用してもよい。</p> <p>③代表的な歩留まりは、産地から拠点までの野菜等の食材又は全体の残渣(ロス)の実績から求めること</p> <p>【配送共通情報】</p> <p>①走行距離は道路距離を基に算出する。</p> <p>②距離や積載率の数値は、集合体又は代表的な値でも良いが、その根拠を明記すること。 集合体の場合で他県にまたがる場合は、生産地は都道府県庁を基準としてもよい。</p> <p>③産地から拠点又は拠点から店舗までの輸送媒体別輸送負荷は、集合化して計上してもよい。</p> <p>④海外調達の場合は、海外における港・空港から拠点までの物流を計上する。</p> <p>⑤冷凍車など特殊車両は、燃費の情報を極力集めて考慮すること。但し、情報収集が不可能な場合は普通車の1.16倍の値を用いることとする(車両部品メーカー ヒアリング結果)。</p> <p>⑥拠点・店舗配送後の輸送媒体の移動の環境負荷を極力考慮することが望ましい。</p> <p>【拠点情報】</p> <p>①拠点での電力や燃料の使用量、および残渣などの排出量は、実績値収集を基本とするが、代表的な拠点の値から面積比などで配分計算してもよい。</p> <p>②拠点での包装材等の使用量は、代表的な拠点の納品実績より計算してもよい。</p> <p>【共通事項】</p> <p>各種のデータ収集は、原則1年間の値とする。</p>
13			カットオフルール	

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め内容
14	内訳データシート(PEIDS関連)	データベース	原単位の選定	①輸送媒体の製造・廃棄時のLCI計算では、以下の共通原単位を当てはめる。 鉄は「冷延鋼板」、非鉄は「Al板」、プラは「PP」、ゴムは「SBR」、 木材は「木材チップ(日本)」、ダンボールは「ダンボール」 ②袋やバンドは材料のみの原単位を用いる
15			原単位の追加	なし。必要に応じて追加する。
16			特性化係数の追加	なし。必要に応じて追加する。
17	製品環境情報	システム概要		Cセクションに配送システム名称および対象輸送食材名を記載し、その下にシステム概要を記載する。 ・配送システム名称はなくともよい。 ・対象輸送食材名は最終商品名ではなく、輸送された食材名を記載すること。 ・システム概要は以下の項目を記載する。 ①データ収集年度(対象年度) ②対象輸送食材名 ③対象輸送手段 ④海外調達比率(主要国名記入) ⑤配送規模(産地数、拠点数、店舗数 等) これらはほかのセクションに記載してもよい。
18		データ公開内容		①必須項目:「エネルギー使用量」、「温暖化負荷」、「酸性化負荷」 ②対象ライフサイクルステージ:全ライフサイクルステージの合計値を使用する。 ③温暖化負荷は、ライフサイクル毎の値と合計値を含んだ棒グラフを掲載する。 ④必要な場合は、産地出荷食材1t当りの数値や、食材輸送負荷1t・km当りの数値も併記してもよい。 様式1には「環境負荷は店舗到達食材1tあたりの値であることを明記すること。」を記載。 ⑤CO ₂ 換算排出量の輸送媒体ごとの比率を記載してもよい。 ⑥Eセクション下部に以下を注記する。 ・産地、店舗、拠点等の説明(項目1の定義を参照)。 ・食材輸送に対して復路を計算範囲に含めているか否かの情報。
19	その他環境関連情報	選択記載項目		以下を取得している場合は情報を記載できる。 ・ISO14001認証取得 ・モーダルシフト情報 ・国または業界などの認定・表彰・協定・連携 ・エコ導入情報:エコ車や省エネ運転など ・環境ラベルのタイプ I 及びタイプ III 取得状況 ・共同配送使用店舗比率 ・その他

【注記】

- ・「輸送」と「配送」の表記について
PCR上は原則として「輸送」を使用するが、物流業界内で平常使用している、「食材配送」「産地配送」「拠点配送」の3点のみ「配送」の表記を使用する。
- ・本PCRで定義したライフサイクル構成とその要素等はエコリーフ標準様式の記載内容と若干異なる部分があるため、様式2「PEIDS」並びに様式3「製品データシート」は本PCR専用様式2(CE)、様式3(CE)を使用する(同様式は巻末に添付)。

PCRレビューの実施

レビュー実施日(制定)	2006/11/21
有効期限	2014/1/31
エコリーフ審議委員会	代表:内山 洋司 所属:筑波大学大学院

本PCRの改訂等履歴

実施日	訂番	実施内容
2006/11/21	01	制定
2011/2/1		更新

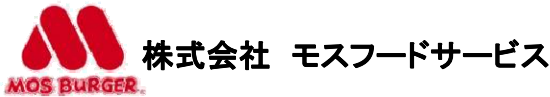
製品環境情報

Product Environmental Aspects Declaration



No. XX-05-001

食材配送システム(適用PCR番号:CE)



モスフード食材配送システム (レタス・トマト・タマネギ・パックオニオン)

http://www.mos.co.jp
〒162-8501 新宿区 笹笥町 22番地
〈問い合わせ先〉
環境推進グループ
電話:03-3266-8744

〈システム概要〉

対象年度	2004年4月1日～2005年3月31日
対象食材	レタス・トマト・タマネギ・パックオニオン
対象輸送手段	トラック・鉄道・船舶・航空機
海外調達率	0%

〈ライフサイクルにおける主な環境負荷(食材1t当り)〉

環境負荷項目	直接影響のみ	間接影響含む
エネルギー使用量 (MJ)	17,770.9	15,593.4
温暖化負荷(kg-換算CO2)	1,248.2	1,100.0
酸性化負荷(kg-換算SO2)	1.5	1.3

主要産地、拠点、店舗 情報



主要産地数35産地



配送



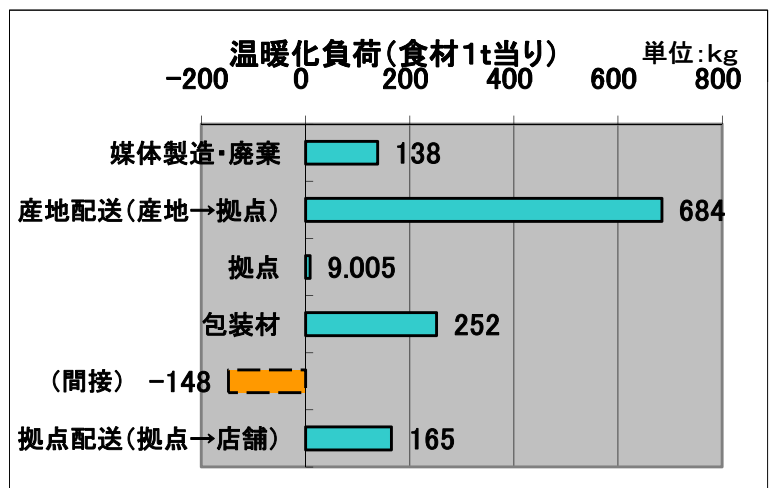
対象拠点数7拠点



配送



対象店舗数1472店



* 橙色のバーは、包装材のリサイクル効果を示す。

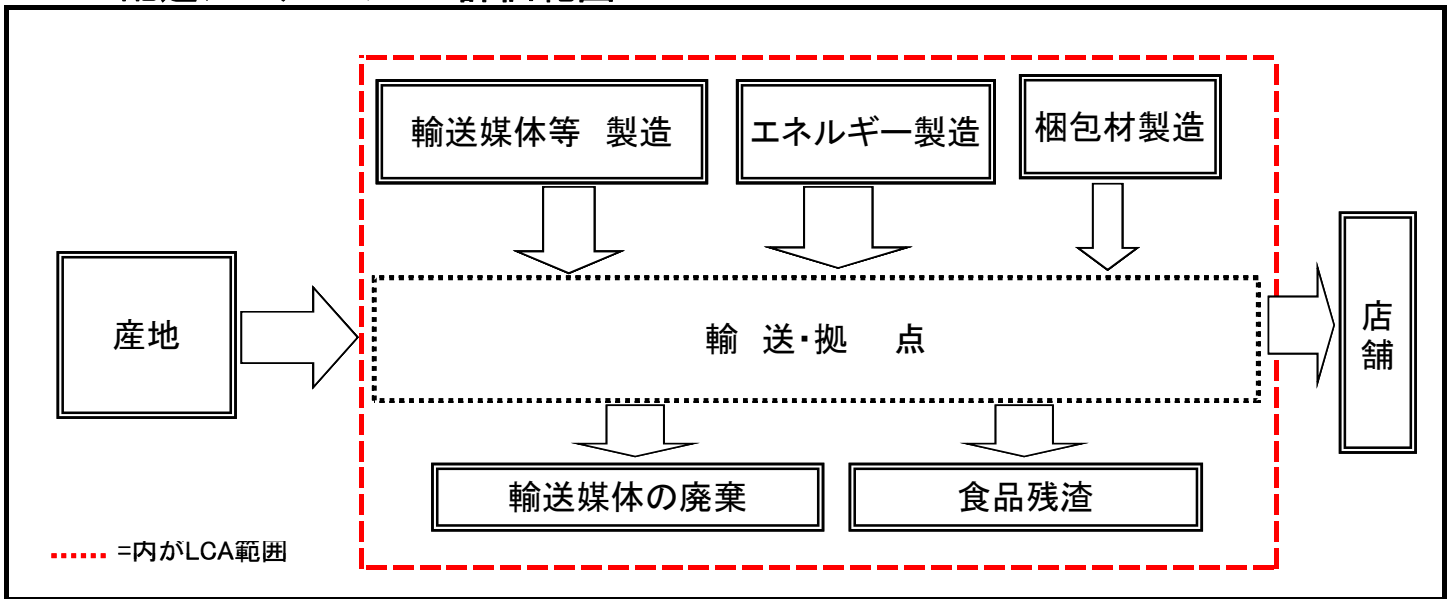
- ・産地とは、日本国内の収穫後の集積地及び生産加工場などを言う。
- ・店舗とは、日本国内の輸送食材の納品地、例えば、スーパー、デパート、ファーストフードなどの飲食取扱店並びにデリバリー店などを言う。
- ・拠点とは、日本国内の産地からの食材を収集し、店舗へ配送する手段を整える倉庫などを言う。
- ・輸送における復路は計算範囲に含めていない。

- (注) 1. 基礎データは、製品環境情報開示シート(PEIDS)並びに製品データシートに記載されています
 2. データ算出のための統一基準は製品分類別基準(PCR)をご覧ください。詳細は <http://www.jemai.or.jp> をご覧下さい
 3. 「リサイクル効果」は、他製品へ及ぼす環境負荷の間接的な影響を示します
 4. 本製品の出荷国は【ここに国名を記載】ですが、現地の原単位データが未整備のため日本国内データを使用して計算しています

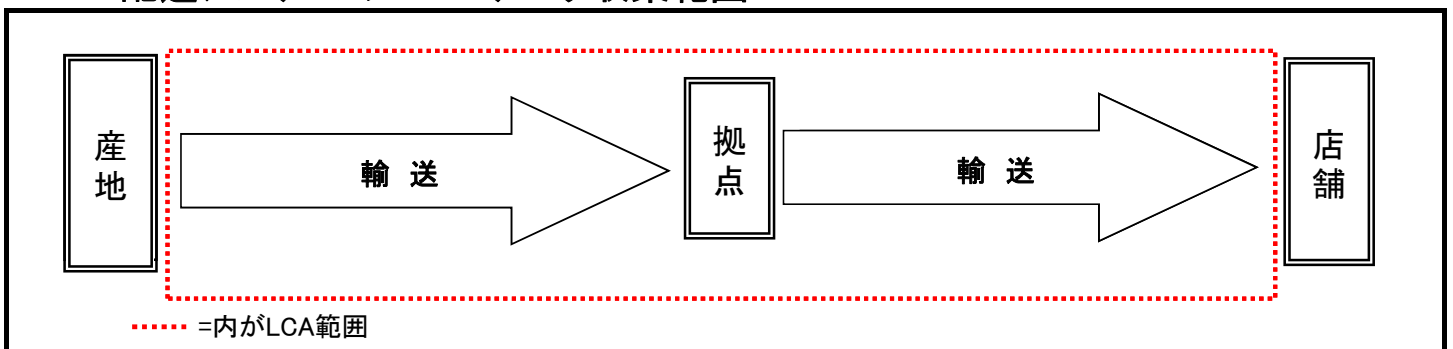
【その他環境関連情報】

ISO認定:(株)モスフードサービス及びモスバーガーチェーン店舗でISO14001認証取得
 モーダルシフト(産地→拠点配送)0km・天然ガス車(拠点→店舗)1台 ハイブリット車 3台
 2006年9月12日 環境省と自主協定を締結
 ICタグ付き通い箱システム(産地→拠点→店舗) ○○店で採用
 共同配送率 ○○店/1472店 冷凍車 使用比率 ○%

A 配送システムのLCA評価範囲



B 配送システムのLCA データ収集範囲



※ 産地の定義: 収穫後の集積地及び生産加工場など

店舗の定義: 国内における輸送食材の納品地、例えば、スーパー・デパート・ファーストフード店など

輸送媒体の製造・解体時の材料や電力等の投入量 W_m の算定

各輸送媒体 i の製造・解体時に投入される材料や電力等の量を輸送負荷で配分した量 W_m は、各輸送媒体 i の輸送負荷 L_i より、下式で算定する。

$$W_m = B_{mi} \times L_i$$

* 注意 輸送負荷の単位は、(kg・km)でなく、(t・km)を用いること。

【算定例】 鉄道の輸送負荷 L_i が 150000t・km の場合、

冷延鋼板 $W_m = B_{mi} \times L_i = 0.00104 \text{ kg/t} \cdot \text{km} \times 150000 \text{ t} \cdot \text{km} = 156 \text{ kg}$

電力 $W_m = B_{mi} \times L_i = 0.00192 \text{ kWh/t} \cdot \text{km} \times 150000 \text{ t} \cdot \text{km} = 288 \text{ kWh}$

表1 輸送媒体の製造・解体時の材料や電力の投入係数 B_{mi}

項目	原単位名称 m	単位	輸送媒体名 i			
			トラック	鉄道	船舶	飛行機
材料	鉄(冷延鋼板)	kg/t・km	4.70E-03	1.04E-03	2.27E-03	0.00E+00
	非鉄(Al板)	kg/t・km	3.71E-04	4.45E-04	0.00E+00	2.12E-02
	プラ(PP)	kg/t・km	3.10E-04	1.65E-04	0.00E+00	0.00E+00
	ゴム(SBR)	kg/t・km	3.10E-04	0.00E+00	0.00E+00	0.00E+00
	木材	kg/t・km	4.95E-04	0.00E+00	0.00E+00	0.00E+00
エネルギー	電力(kWh)	kWh/t・km	1.88E-02	1.92E-03	1.13E-03	8.11E-02
	重油(kg)	kg/t・km	0.00E+00	0.00E+00	5.83E-05	0.00E+00

出典

* ライフサイクルデータ関連(製造、運行、解体ステージのCO₂排出比等)

1) 鉄道総研「鉄道環境負荷の総合評価に関するシンポジウム」(2005,8,24開催)

* トラックの製造(素材構成、組立電力等、4社の4tトラックより)

2) 日本自動車工業会「第4回エコバランス国際会議」発表論文(2000,10,31-11,2)、

日本自動車工業会「自動車技術」論文(Vol.56.No.7、2002)

* 鉄道車両の製造(素材構成、組立電力等、資源協会まとめのJR,車両メーカー調査より)

3) 資源協会「大都市生活のライフサイクルエネルギー」あんほるめ(H11,1,13)

* 船舶の製造(素材構成、組立電力と重油、76000トンバラ積み貨物船)

4) 海上技術安全研究所「LCAシンポジウム」(2006,1,11開催)

* 航空機の製造(素材はアルミ、素材/組立は船舶と鉄道の9/1と設定)

配送時の燃料・電気使用量の算定方法

1. 燃料法

各輸送手段ごとの燃料使用量を収集し、燃料単位を L から kg に換算する。

$$\text{燃料使用量 (kg)} = \text{燃料使用量 (L)} \times \gamma \text{ (kg/L)}$$

ガソリン燃料密度	$\gamma = 0.75 \text{ kg/L}$
軽油燃料密度	$\gamma = 0.83 \text{ kg/L}$

2. 燃費法による燃料使用量計算方法

各輸送手段ごとの燃費 (km/L) と輸送距離 (km) を収集し、以下の手順で燃料使用量を算出する。

$$\text{燃料使用量 (kg)} = \text{輸送距離 (km)} / \text{燃費 (km/L)} \times \gamma \text{ (kg/L)}$$

3. t・km法による燃料使用量計算方法

(1) 各輸送手段ごとの積載率Y(%)、輸送負荷W(t・km)を収集する。(積載率は極力収集するがなくても可。)

(2) 各輸送手段毎のt・kmあたり燃料・電気使用量 b (kg/t・km、kWh/t・km)を、以下の手段で算出する。

●トラック輸送の場合

最大積載量Z(kg)と積載率Y(%)を用い、式(1)あるいは(2)を用いて、X(L/t・km)を算出する。

$$\text{ガソリン燃料: } \ln(X) = 2.67 - 0.927 \cdot \ln(Y/100) - 0.648 \cdot \ln(Z) \quad \dots(1)$$

$$\text{軽油燃料: } \ln(X) = 2.71 - 0.812 \cdot \ln(Y/100) - 0.654 \cdot \ln(Z) \quad \dots(2)$$

X(L/t・km): t・kmあたりの燃料使用量、Y(%): 積載率、Z(kg): 最大積載量

更に燃料の密度 γ を用いて b (kg/t・km) に単位換算する。

$$b = X \times \gamma$$

* 積載率Yが不明な場合は、表1の平均積載率より算出したt・kmあたり燃料使用量 b を用いる。

●鉄道・船舶・航空輸送の場合は、表2の燃料・電気使用量 b を用いる。

(3) 各輸送手段毎の燃料・電気使用量F(kg、kWh)を、(1)のWと(2)の b を用いて、式(3)で算出する。

$$F(\text{kg, kWh}) = b(\text{kg/t・km, kWh/t・km}) \times W(\text{t・km}) \quad \dots(3)$$

表1 トラック(事業用貨物自動車)のt・kmあたり燃料使用量 b(積載率が不明な場合)

燃料	最大積載量 Z (kg)	平均積載率 Y (%)	燃料使用量 b (kg/t・km)	対象車両
ガ ソ リ ン	軽自動車	41	0.5558	軽貨物車
	2000未満	32	0.3540	ライトバン、ルートバン、1tトラック
	2000以上	52	0.1440	2tトラック
軽 油	1000未満	36	0.4914	ライトバン、ルートバン
	2000未満	42	0.2117	1tトラック
	4000未満	58	0.1029	2tトラック
	6000未満	62	0.0701	4tトラック、5. 5tトラック
	8000未満	62	0.0562	7. 5tトラック、1個積通運トラック
	10000未満	62	0.0477	8tトラック、9tトラック
	12000未満	62	0.0418	10tトラック
17000未満	62	0.0349	13tトラック、2個積通運トラック、トラクタ	

* 通運トラック・トラクタは、コンテナを含む重量で最大積載量を適用する。

出典 経済産業省告示第66号の別表第3 (燃料単位を L から kg に換算)

表2 トラック以外のt・kmあたり燃料・電気使用量 b

No	項目	燃料種	数値
1	鉄道(kWh/t・km)	電気	0.0503
2	船舶(kg/t・km)	重油	0.0119
3	航空(kg/t・km)	灯油	0.4779

国内民間航空機のジェット燃料は、1号灯油型ケロシンが主流

出典 経済産業省告示第66号の別表第4 (エネルギー消費量MJを燃料・電気使用量kgまたはkWhに換算)

経済産業省告示第66号の名称:

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に関する経済産業省の告知第66号(2006年4月1日から施行)に基づく告知第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係るエネルギーの使用量の算定の方法」

製品環境情報開示シート(PEIDS)

Product Environmental Information Data Sheet(PEIDS)



文書管理番号	F-02-02(CE)
エコリーフ作成事業者名	
エコリーフ登録番号	

エコリーフ原単位データベース		版
エコリーフ特性化係数データベース		版

製品分類名		輸送食材	1t
PCR-No.			

入出力項目	ライフサイクルステージ		単位	輸送媒体の製造・廃棄	産地配送(産地→拠点)	拠点		拠点配送(拠点→店舗)	リサイクル効果		
	エネルギー等	包装材等									
インベントリ分析	消費エネルギー	MJ									
		Mcal									
		枯渇資源	資源	石炭	kg						
				エネルギー資源	原油(燃料)	kg					
				LNG	kg						
				ウラン	kg						
				鉄鉱石(Fe)	kg						
				銅鉱石(Cu)	kg						
				ボーキサイト(Al)	kg						
				ニッケル	kg						
				クロム	kg						
				マンガン	kg						
				鉛	kg						
				錫	kg						
				亜鉛	kg						
	金			kg							
	銀	kg									
	シリカ	kg									
	岩塩	kg									
	石灰石	kg									
	soda ash(天然ソーダ灰)	kg									
	再生可能資源	wood	kg								
	water	kg									
	環境排出負荷	大気へ	CO2	kg							
			SOx	kg							
			NOx	kg							
			N2O	kg							
			CH4	kg							
			CO	kg							
			NM VOC	kg							
CxHy			kg								
dust			kg								
水域へ			BOD	kg							
			COD	kg							
			全N	kg							
			全P	kg							
			SS	kg							
土壌へ			不特定固形廃棄物	kg							
	スラグ	kg									
	汚泥類	kg									
	低放射性廃棄物	kg									
	資源枯渇	鉱物資源	kg								
エネルギー資源	kg										
インパクト評価	環境排出	温暖化	kg								
		酸性化	kg								
		水域へ	富栄養化	kg							
		土壌へ									

温暖化負荷の内訳(CO2換算)

輸送手段の種類	トラック	鉄道	船舶	飛行機
産地配送ステージ	kg			
拠点配送ステージ	kg			

【共通備考】

- I ステージ関連
 - 輸送媒体の製造・廃棄に必要な材料・エネルギー情報:トラック、鉄道車両、船舶、飛行機の製造および解体・廃棄時に投入するエネルギー等の使用により構成される。
 - 産地配送情報:産地から拠点の食材輸送に投入されるエネルギー等の使用により構成される。
 - 拠点情報:拠点におけるエネルギー等の使用、食材残渣排出のほかに、産地配送・拠点配送に使用される梱包材の製造と廃棄リサイクルが含まれる。拠点における食材加工のエネルギーも含まれる。
 - 拠点配送情報:拠点から店舗の食材輸送に投入されるエネルギー等の使用により構成される。
 - リサイクル効果:リサイクル材使用や使用後に他製品へリサイクルする場合、他製品へ及ぼす波及効果(間接環境影響)を示す(リユースも同様)欄で、*他製品からリサイクルされた材料/リユースされた部品を用いた場合:他製品の回収工程環境負荷の増加分と、廃棄処分環境負荷の低減分。
*使用後に、他製品がリサイクル材料やリユース部品として転用した場合:回収品からの再生工程環境負荷の増加分と、他製品の素材製造環境負荷の低減分。
 - II インベントリ分析関連
 - 枯渇資源項目の鉱石類のデータは、鉱石に含まれる純成分(鉄、アルミニウムなど)の量として示される。
 - エネルギー資源項目のデータは、発熱量起源の数値を記載し、例えば、ウラン鉱石は燃料として使用可能な濃縮ウランの原子燃料の量を示す。
 - 水域への排出データは、実測値である(インベントリ分析の原単位計算からは算出されない)。
 - III インパクト評価関連

*インパクト評価は、インベントリ分析の負荷量を基準となる物質の量(例:温暖化ではCO2)に換算し、合計して求められたものである。

 - 消費負荷:資源、エネルギー資源の枯渇への影響の程度を、括弧内の基準物質に換算して示した値である。
 - 環境排出負荷:大気、水域、土壌への影響の程度を、括弧内の基準物質に換算して示した値である。
 - IV 記載データ
 - 指数表示(小数点以下2桁)が原則である。
 - 計算あるいは推算データが等と評価される場合、あるいは他のデータとの相対的關係において無視しうる場合は"0"表示(指数表示にしない)とされる。
 - 計算あるいは推算できない場合は"- "表示とし、"0"表示と区別して扱われる。
 - "-"欄が含まれない入出力項目に限り、各項目が加算表示される。"- "欄が含まれる入出力項目の合計欄は空欄とされる。
- * 素材の製造原単位(バックグラウンドデータ)は、原則として、鉱石より製造した場合の数値であり、スクラップ等は含まれない。(詳細は、エコリーフ原単位リスト参照)

【解説】

- リサイクル効果欄は、拠点情報における梱包材のリサイクル効果を示す。
- t-km法における輸送負荷量から燃料・電気使用量への換算は経済産業省告示第66号「貨物輸送事業者に行わせる貨物の輸送に係わるエネルギーの使用量の算定の方法」に準拠。

様式3(CE)

製品データシート(PDS)

(LCA計算のための入力データ, 設定数値)



文書管理番号	F-03-02(CE)
エコリーフ作成事業者名	
エコリーフ登録番号	

製品分類名		製品形式	
製品単位		輸送食材	1t

1 対象食材情報(食材1t当り)

NO	食材名称	代表歩留まり	t	説明欄

2 輸送媒体の製造・廃棄に必要な材料・エネルギー情報 (食材1t当り、耐用年数考慮)

区分							
内訳項目							
量							
説明							

3 産地配送(産地→拠点)情報 (食材1t当り)

NO	輸送媒体名	単位	数値	説明欄

4 拠点情報 (食材1t当り)

(1)エネルギー等の投入・排出量 (食材1t当り)

NO	項目	単位	数値	説明欄

(2)包装材等の使用量 (食材1t当り)

NO	項目	単位	数値	説明欄

5 拠点配送(拠点→店舗)情報 (食材1t当り)

NO	輸送媒体名	単位	数値	説明欄

6 その他

【解説】